



京都切り絵歳時記

月刊 あじえんだ 10月



みや
京のアジェンダ21フォーラム 事務局通信
月刊あじえんだは当フォーラムの活動紹介を中心とした
京都発、環境関係の情報発信紙です

事務所 〒612-0031 京都市伏見区
深草池ノ内町13
京エコロジーセンター2F
活動支援室内
TEL: 075-647-3535 FAX: 075-647-3536
E-mail: ma21f@mbx.kyoto-inet.or.jp

事務局 〒604-8101 京都市中京区柳馬場通
御池下ル柳八幡町65
京都朝日ビル4F
京都市総合企画局地球温暖化対策室内
TEL: 075-211-9281 FAX: 075-211-9286

京のアジェンダ
21フォーラム



新たに2つのプロジェクトチームが発足

9月21日、市役所寺町第2会議室において、2007（平成19）年度第4回幹事会・第3回常任幹事会合同会議が開催されました。

●議案：2つのプロジェクトチームが発足

◇京都市地球温暖化対策政策提言プロジェクトチーム

京都市では地球温暖化対策条例と地球温暖化対策計画をもって温暖化対策を進めています。これら市の取組を、より市民、事業者、行政のパートナーシップの下に進めていくための政策づくり・仕組みづくりを検討し、提言を取りまとめることを目的として活動するプロジェクトチームです。

プロジェクトチームのコーディネーターは、田浦健朗常任幹事です。同氏は京都市地球温暖化対策評価検討委員会のフォーラムからの委員です。今後、田浦コーディネーターが選任したメンバーとともに、活動を開始します。

活動に要する経費はフォーラムの本年度予算枠から執行されます。

◇脱温暖化に向けた都心社会実験支援プロジェクトチーム

現在、京都市都市計画局交通政策室が中心となって進めている「『歩いて楽しいまちなか戦略』社会実験」（以下、「社会実験」という）としてこの10月に実施するメニューのひとつである都心の臨時駐輪場の企画立案・事業実施を目的とするプロジェクトチームです。

プロジェクトチームのコーディネーターは、山田章博交通ワーキンググループコーディネーターです。同氏は「歩いて楽しいまちなか戦略推進協議会」におけるフォーラムからの委員です。山田コーディネーターが選任したメンバーとともに、社会実験の都心臨時駐輪場の運営に関する業務一式を行います。

プロジェクトの実施に要する経費は、フォーラムが業務を請け負う形で、都市計画局の社会実験予算から執行されます。

●意見交換：「歩いて楽しいまちなか戦略」社会実験

幹事会には大島幹事（都市計画局長）の代理として石崎都市計画局交通政策室長が出席し、社会実験の全体像およびその詳細について説明しました。

当フォーラムの交通WGでは、昨年度から脱温暖化社会に向けて、この「歩いて楽しいまちなか戦略」と連携する活動を「まちなかプロジェクト」として進めており

ます。今回の社会実験においては、都心臨時駐輪場の運営にあたって中心的役割を担います。

一連の社会実験の詳細は交通WGのホームページ「京の交通交流ひろば」<http://traffic.ifdef.jp/>で逐次掲載予定です。ご参照ください。

◆10月5日（金）～14日（日） 「歩いて楽しいまちなか戦略」社会実験

京都市都心部（三条～四条、烏丸～河原町）において、大規模な交通社会実験を行います。

1. 自動車の通行規制

10月12日夕方、13日14日午後から夕方において、指定エリア内が自動車通行禁止になります。

2. ゆとりある歩道の実現

上記時間帯に、四条通において車線規制を行い、一時的に車道の一部を歩道として、歩行エリアを拡張します。

3. 臨時駐輪場の設置

10月9日～14日の6日間、多数の臨時駐輪場（無料）を設置します。市内にお住まいの方々はぜひ自転車車で都心部へお越しいただき、駐輪場をご利用ください。さらに期間内は放置自転車撤去を強化し、より歩きやすい歩道を実現します。

4. より便利なバスサービスの実現

四条通のバス停をより分かりやすくより便利に配置します。また100円循環バスを増発します。皆さまのご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。



【写真】臨時駐輪場設置のための現地調査

Agenda
Forum
10月の
ミーティングと
主催行事の予定

2日（火） 18:30～ えこまつりWG運営会議（ecotone事務所）
2日（火） 18:30～ 社会実験都心臨時駐輪場運営スタッフ説明会（ウイングス京都）
5日（金） 10:00～ 企画会議（場所未定）
9日（火）～14日（日） 社会実験都心臨時駐輪場運営
15日（月） 10:00～ 京都市自治記念日記念式典でフォーラムに表彰状授与（京都会館）

KESC 京都環境コミュニティ活動 説明・学習会 9月14日に開催しました

「京都環境コミュニティ活動プロジェクトチーム」(プロジェクトリーダー：(有)村田堂 取締役 長屋博久)では、事業者と当フォーラム、NPO等が集まり、地域における、事業者、学校、住民が連携して環境取組を行う仕組みづくりを進めています。

今年度は、“出前環境学習”、“市民共同おひさま発電所づくり”、“水源の森づくり”の3つの取組を予定しています。

プロジェクトでは、9月14日、京エコロジーセンターにおいて、参加を検討している事業者の皆さんを対象とした説明会・学習会を開催しました。当日は、KESCを取得するなど環境問題への取組を熱心に進めている18の事業者が集まりました。中心となって活動しているメンバーが今年度の取組を説明し、参加者同士で活発な意見交換が行われ、活気のある会合となりました。

■当日のプログラムより 今年度の取組の説明

○出前環境学習 話題提供：山沢邦良氏

(株式会社エコロ21 常務取締役)

昨年度、当社ほか複数の事業者が協働で内容をつくりあげ、伏見区内の小学校4年生120名に対し、自然エネルギーを題材とした45分間の授業を実施しました。大変苦勞もりましたが楽しい体験でした。

今年は中京区の小学校で、交通に関する出前環境授業を実施する予定です。交通に係る授業内容の作成に参加協力して下さる事業者を募集中です。

○市民共同おひさま発電所づくり 話題提供：豊田陽介氏 (特定非営利活動法人きょうとグリーンファンド 理事)

この取組は今年から実施します。市民共同おひさま発電所は、きょうとグリーンファンドが始めた取組で、市民、事業者等が寄付を出し合って、保育園等の屋根に太陽光発電パネルを設置しています。対象となった保育園では、子ども達や保護者が省エネやごみの削減に取り組むようになるなど、高い環境啓発効果がありました。

今年度は伏見区醍醐の「つくし保育園」の屋根に太陽

光発電パネルを設置します。事業者の皆さんには、設置費用の寄付のほか、点灯式、お祭り等の啓発イベントへの参加協力をお願いします。

○水源の森づくり 話題提供：中島英雄氏 (日本熊森協会 フィールド部長)

この取組は今年から実施します。植物と動物が織り成す生態系が保たれた豊かな森は、全ての生物の命の源であり、全ての産業の基盤となるものです。現在、そのような日本の森林が、未曾有の危機に瀕しています。乱開発や1960年代以降の行き過ぎたスギやヒノキの人工林化、地球温暖化、酸性雨等によって、京都でも、川の流量の減少、土砂災害、奥山で棲めなくなつて里に出てきた野生鳥獣による農林業被害が発生しています。1300年の歴史を支えてきた京都の森の保全復元に、事業者の皆様が乗り出してくだされれば、これほど嬉しいことはありません。

今年度は、左京区花背で、人工林の間伐、広葉樹の植林を予定しています。こういった作業に参加協力して下さる事業者を募集中です。

参加事業者等(順不同)

株式会社ホンダカーズ京都/株式会社エコロ二十一/月桂冠株式会社/学校法人龍谷大学/日本電気化学株式会社/株式会社松井色素工業/科研製薬株式会社/京都電測株式会社/社会福祉法人京都市社会福祉協議会/株式会社京都テクニカ/株式会社京都ホテル/朝陽堂印刷株式会社/常盤電機商会株式会社/株式会社エスケエレクトロニクス/株式会社コーフク/学校法人真宗大谷学園大谷大学/三幸総研株式会社/有限会社村田堂

上記のとおり、“出前環境学習”、“市民共同おひさま発電所づくり”、“水源の森づくり”の3テーマについて、引き続き参加事業者を募集しています。興味のある方は、フォーラム事務所(担当：小山 連絡先は1ページ右肩参照)までご連絡ください。

※京都環境コミュニティ活動へは、KESCの一環として取り組むことができます。

Kyoto



脱温暖化行動
キャンペーン

～地球の未来にやさしい風を～

脱温暖化行動キャンペーン

昨年にも続き今年も実施 交通とエネルギーの2分野で社会に根付く取組を

昨年度(2007年2月)、京都議定書発効2周年の時期に、脱温暖化の行動や社会の仕組みづくりを促す「脱温暖化行動キャンペーン」を実施しました。

今年度も、2008年2月を中心に、再度「脱温暖化行動キャンペーン」を実施します。既に2回(8月3日、9月20日)のプロジェクトチーム会議を開催し、以下のような具体的な取組内容が検討されています。

○交通分野

公共交通利用促進のため、公共交通機関で来店したお客様への優遇(代金割引など)サービスを実施する飲食店を募集する取組を行います。優遇サービスのPRが店舗の集客につながることで、飲酒運転防止はもとより、地球温暖化防止を呼びかけることが店舗のイメージアップへとつながることなど、メリットを強調し

ながら参加を呼びかけることで参加店舗を増やし、将来的にはフォーラムの手を離れて社会に根付くところまでを目指して、取組を進めていきます。

また、その他の取組も検討中です。

○エネルギー分野

昨年度のキャンペーンで好評だった省エネ相談所を、さらに発展させる取組を行います。他団体とも連携し、省エネ相談員を養成する仕組みをより強化します。また、昨年度は区役所・支所での開催でしたが、今年度は大型商業施設でも相談所を開催し、より幅広い人たちに省エネの意識強化と具体的なアドバイスの浸透を目指します。

また、その他の取組としては、グリーン電力証書の仕組みを活用した自然エネルギーの利用促進の取組を検討中です。

『2007NEW環境展大阪』でパネル展示を行いました。 9月6日(木)～9月8日(土) インテックス大阪

9月6～8日の3日間、大阪市住之江区にある国際展示場「インテックス大阪」において、『2007NEW環境展大阪』が開催されました。(主催：株式会社日報アイ・ピー)「守ろう地球 創ろう共生社会」をテーマとしたこの展示会では、事業者による廃棄物処理・再資源化のための機械やエコ製品の展示を初めとして、自治体、事業者、NPOが行う地球温暖化防止、自然環境保護のパネル展示コーナーが設けられました。

ここで京都市における取組を紹介するため、京エコロジーセンターと京都市地球温暖化対策室が、共同で

ブース出展を行いました。このブース内で、京エコロジーセンターの協力を受けて、当フォーラムも活動紹介を行いました。活動紹介の内容は、①フォーラムの活動について、②脱温暖化行動キャンペーンについて、③京都環境コミュニティ活動(2ページ参照)について、各1枚ずつ、3枚のパネルを展示しました。

(下左右写真：パネル展示状況)

会期中、この展示ブースには、事業者、自治体職員、NPOなど1000人以上の方に訪問していただきました。特に事業者の方たちは、京都環境コミュニティ活動のパネルに注目が高く、熱心な質問もあり、この活動に対する関心の高さをうかがうことができました。



助成金案内 環境取組を対象とした助成金情報を紹介します

●東洋ゴムグループ環境保護基金

■助成対象団体
広く環境保護・保全活動を行なう非営利団体に助成します。

■募集期間
2007年10月1日～11月30日

■助成金額
1件あたり原則100万円以下

■応募方法
当基金の窓口は財団法人大阪コミュニティ財団です。
大阪コミュニティ財団HP

<http://www.osaka-community.or.jp/>
応募申込書、および応募規定はこちらのHPに掲載されています。

http://www.osaka-community.or.jp/contents/grant/grant_guide.htm

■お問合せ先
財団法人大阪コミュニティ財団または
東洋ゴム工業株式会社
品質環境センター
環境推進グループ
住所：〒550-8661大阪市西区江戸堀1-17-18
電話：06-6441-8774 FAX 06-6445-0333



事務局動静 9月 ～事務局スタッフの動きを報告します～

2日(日) 省エネ普及ネット・京都設立総会
3日(月) 事務局会議
4日(火) JR西日本京都支社訪問
歩いて楽しいまちなか戦略推進協議会
5日(水) 小幡幹事長訪問
京都GPN幹事会
7日(金) 事務局会議
11日(火) 京都商店連盟中京東支部プロジェクト打合せ
KES環境研修
12日(水) えこまつりWG運営会議
13日(木) 気候ネットワーク地域温暖化対策研究会

14日(金) 省エネ相談所部会
京都府地球温暖化対策プラン検討会議
京都環境コミュニティ活動 説明会・学習会
16日(日) スルッとKANSAIバスまつり
19日(水) すぎ本幹事長代理訪問
20日(木) 脱温暖化行動キャンペーン会議
21日(金) 幹事会
KES審査員研修
22日(土) 人と環境にやさしい交通をめざす全国大会
23日(日) 京都音楽博覧会展
26日(水) KES環境委員会
28日(金) 事務局会議
30日(日) 都心社会実験臨時駐輪場スタッフ説明会



【第4回】小山直美のドイツ報告 ドイツの自然復元



私は、兵庫県の宝塚市で生まれ育ちました。私が子どもの頃は、家の周りに雑木林がたくさんあり、友達とよく遊んだものでした。しかし宅地開発のために、次第に雑木林は伐採され、近くの川はコンクリート張りにされていきました。子ども心にも、私が生まれるよりもっと昔から、その地に生えていた木々がいとも簡単に切り倒され、タヌキやキツネなどの動物が棲みかを追われていなくなってしまうのが辛くてたまりませんでした。

今回私が訪問したドイツの地域でも、宅地開発のための森林伐採が問題になっているとのことで、程度の差こそあれ、自然環境問題は日本でもヨーロッパ諸国でも同じように存在するのだと思いました。しかしドイツでは、一度人工的に変えてしまった自然を、もう一度もとに戻すことに力を入れています。私はドイツ滞在中、ルートヴィヒスブルクの行政職員の方に、自然復元事業を行っているいくつかの現場を見せていただきました。

◇水路

ドイツは、河川の自然を復元する取組で有名です。ドイツには、一度人工的にしてしまった河川を、もとの自然の状態に戻さなければならないという法律があるそうです。

右上写真のネッカー川に注ぐ小さな水路は、かつてはコンクリートで固められて一直線だったのを、数年かけて、蛇行させて自然の状態に戻したところでした。

ルートヴィヒスブルクの事業として、1995年に工事に着手したというこの水路は、今では岸に植物がたくさん生え、自然に近い川に戻っています。コンクリート張りだった20年前と比べ、魚の数が2倍に増えたとのことでした。私が訪問したときも、この水路をカモがゆうゆうと泳いでいくのを見ることができ、感動的でした。

◇採石場跡地

次に、一旦は植物が全て失われ地肌がむき出しになってしまった採石場跡地の山に木を植え、人々が集える森に復元し

ようとしている場所を見せていただきました。この場所の木は植えられたばかりで、それが森に回復するのは、まだまだ先です。

ここにはピオトープの池も造られていました。使われているのは土と石だけです。ビニールシートも使われていません。この池には、山の上から流れて来た水が溜まって、オタマジャクシがたくさん泳いでいました。職員さんは「夏になったら池の水は干上がってしまうが、それが自然だから仕方がない。オタマジャクシは、この池が夏には干上がるのを知っているので、早くカエルになろうとする」と話されました。日本のピオトープは人が管理することが多いので、自然に任せるというこの方法は、私には新鮮でした。

日本では、宅地開発はもちろん、必要性が疑問視される林道やダム建設、埋め立て、河川改修工事が今でも後を絶ちません。ほかの生物が棲めるような環境は、人間にとってもやさしいということに既に気付いて実践されているドイツの方法を参考にしていきたいものです。日本でも、既に人工的に変えてしまったところは、可能な限り元の自然の状態に戻すとともに、何よりもまず、これ以上、不必要な自然破壊をしないようにしていくことが大切です。

(小山直美)

【上写真】コンクリート張りで一直線だったのを、自然の状態に復元した水路

【下写真】採石場跡地の、土と石だけで造ったピオトープの池



事務局短信 いよいよ涼しくなってきましたね。これから秋のイベントシーズンです。お祭り・イベントに参加される折には、先月号でご案内した「お祭り調査シート」を片手にお出かけください！ お祭りの開催状況把握にもなりますので、全項目記入できなくても返送いただければありがたいです。(竹村光世) / 秋らしく、過ごしやすい気候になってきました。夕方になると、秋の虫の澄んだ鳴き声が聞こえてきます。フォーラムの様々な事業も、これから実施本番を迎えます。今後とも応援くださいますよう、よろしく願いいたします。(小山直美) / 10月の「歩いて楽しいまちなか戦略」の都心社会実験には、ぜひご注目を。社会実験期間中に自転車で都心にお越しのときは、フォーラムが運営する臨時駐輪場もご利用ください。それと先月号短信で予告したフォーラムウェブサイトリニューアルのご案内は次号に回させていただきます。(長谷川吉典)

★「お祭り調査シート」については http://ma21f.web.infoseek.co.jp/wgpage/ecomatur/ecomaturitop.html#_070830reuse をご参照ください。